

目的 血清リポ蛋白の電気泳動法はより分離能のよい支持体へと研究が進み、濾紙からセ・ア膜、アカロースゲル、さらにディスク泳動（以下 PAD と略記）まで発展した。PAD が最も分離能が良いが操作が複雑なので、セ・ア膜による方法が最も普及している。最近新しい支持体としてポル-Eフィルムが登場した。これはアカロースゲルの厚さ 0.38mm のフィルムで通常の寒天平板（厚さ約 2mm）に比し非常に薄く微量の試料に対して秀れた分離能を発揮することが期待される。著者らは操作の簡単なポル-Eフィルムシステムをリポ蛋白分画に応用し PAD と比較検討した。

方法 PAD は Narayan 法に準拠した。血清をスタン黒 B で前染色（24 時間後 3.75% 細孔ゲル 2.5% 粗孔ゲル、試料ゲル（血清 10 μ l）を作製（PH 8.6 のトリス緩衝液を 1 検体当り 3ml の定電流で 30 分間泳動した。ポル-Eフィルムでは血清塗布量 1 μ l、PH 8.6 のペロナール緩衝液を 1 プレート（8 検体）当り 18mA の定電流で 1 時間泳動した。染色は Fast Red 7B を用いた。両者ともデンスイトメーターで分画値を求めた。

結果 ポル-Eフィルムによる成績は新鮮な試料では α_2 - β と β の分離は明瞭でかつ α_1 の値が PAD による値と一致するが α_2 - β と β の分離は当初期待していた程良好ではなく脱色に難点がありバックが淡く着色するなど PAD に比べればはるかに劣るが操作がきわめて簡単で試料が微量で済むという長所があり、精度が良好であればセ・ア膜にかわって日常の検査にひろく応用できると思われ、今後ポル-Eフィルムシステムをセ・ア膜による方法と比較して検討したい。